

編集後記

心せわしい年の瀬となったが、しばし腰を落着けて、日本をとりまく国際的な状況の中でのリハビリテーションを考えていただこうと思って「リハビリテーションにおける国際協力」の特集をお届けする。

太宰氏には日本障害者リハ協会会長として、また1988年の第16回RI世界会議（9月、東京）会長としての責任ある立場から、RI、国際障害者年、88年の東京大会などを中心に国際協力について論じていただいた。澤村氏にはISPO（国際義肢装具協会）と1989年の第6回世界会議（東京）を中心のべていただいた。2年続けて大きな世界会議がわが国で開催されるわけで、当事者には大変であるが、わが国のリハビリテーション界に与える刺激には大きなものがあるだろうと期待される。「アジア地域との国際協力」のテーマでは4人の方に書いていただいた。初山氏には国立リハ・センターでの義肢・装具技術

者研修会、武間氏にはアガベ作業センターでの職業リハ研修、松井氏には日本の援助で作られたタイの労災リハセンター、今井氏には特殊教育の分野での地域協力と、広い範囲にわたり、わが国のアジア地域に対する協力の実績の一端を紹介していただいた。最後の鼎談（横山、大川、上田）ではリハ医学分野の国際協力の歴史と展望を語り合った。

渡辺氏の巻頭言は、車椅子の医師という立場からの貴重な提言である。

本号ではこの他に研究と報告1篇、紹介2篇、学会報告1篇をのせることができた。いずれも価値あるものであるが、今田氏の「中間施設問題の根底にあるもの」は重要な問題を扱っているのでぜひ御一読いただきたい。

本号をもって講座2つと一頁講座とが完結した。いずれも実際の、役に立つ内容のものであり、執筆者の各氏に感謝したい。

（上田 敏）

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欲
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
（五十音順）

（細田、山田）

次号予告（第14巻 第1号）

特 集 最近の進歩と展望

体性感覚誘発電位……………慶大月ガ瀬リハセンター 木 村 彰 男
義肢学における最近の進歩と展望……………都補装具研 加倉井 周 一
障害者に適したワープロ……………愛媛大 首 藤 貴
在宅酸素療法……………国療東京病院 古 賀 良 平

巻 頭 言 膨らみきったリハビリテーションの概念…養育院付属病院 奥 川 幸 子
研究と報告 急性期脳卒中患者における転倒の検討……………代々木病院 杉 山 修 次・他
運動負荷時におけるR-R間隔の変動……………東京都・老研 丸 山 仁 司・他

症 例 報 告 嚥下障害のリハビリテーション……………国療村山病院 矢 守 茂・他
紹 介 地域リハビリテーション協議会の経験…兵庫リハセンター 澤 村 誠 志・他

講 座 治療の最近の進歩

（1）心筋梗塞の治療……………公立昭和病院循環器科 定 利 勝・他
物 理 療 法

（1）リハビリテーション領域における

物理療法……………川崎医大 土 肥 信 之

一 頁 講 座 運 動 学

（1）基本的肢位・基本面・基本軸・物理学的

事項……………川崎医大 明 石 謙

印 象 記 第9回リハビリテーション

交流セミナー……………横浜市リハセンター設立準備室 土 屋 弘 吉